



国際通貨研究所メールマガジン（第 22 号 2014/1/15 発行）



Institute for International Monetary Affairs (IIMA)



<http://www.iima.or.jp/>



※本メールは配信専用のアドレスからお送りしております。

返信をいただいても当方では受け取ることができません。

閲覧には Adobe Reader が必要です。

Adobe Reader のダウンロードはこちらから→ <http://get.adobe.com/jp/reader/>



1. 理事長 行天豊雄のコラム 『米国経済の行方』

やっとの FED の QE3 縮少が始まった。春の失敗にこりて今度は FED も慎重で、お蔭でマーケットも平静に受け止めた。経済指標も良いものが出て株価は高値更新が続いている。サブプライムローン破綻から 6 年、「百年に…

（株式会社マネーパートナーズへの寄稿）

（全文はこちらから）

<http://www.iima.or.jp/Docs/merumaga/2014/20140115gyoten.pdf>



2. 経済調査部長 兼 開発経済調査部長 佐久間 浩司のコラム 『金融システムのバックストップ』

少し前のことになるが、2013 年 IMF 総会に関連したセミナーに参加するためワシントンの同本部に行った時、金融の経営者向けに IFC が作った「銀行役員のためのガイダンス」という冊子（添付写真）が置いてあり、パラパラ…

（IIMA メールマガジンへの寄稿）

（全文はこちらから）

<http://www.iima.or.jp/Docs/merumaga/2014/20140115sakuma.pdf>

■ 購買力平価グラフの更新

<http://www.iima.or.jp/research/ppp/index.html>

■ 今月の新着レポート

1. 「ユーロ圏の国際収支不均衡：ドイツの経常収支黒字は問題か？

～第3次アラート・メカニズム・レポートより～

欧州委員会はアラート・メカニズム・レポートでドイツの対外不均衡の大きさを指摘、今後詳細調査が行われる。また、米国財務省はドイツの経常収支黒字は世界経済にデフレ圧力をもたらしていると批判した。本稿では、2000年代以降に急拡大したドイツの経常収支黒字についての議論を紹介する。

http://www.iima.or.jp/Docs/topics/2014/245_j.pdf

2. 「ASEANの銀行セクター統合について」

ASEANは2015年の経済共同体創設を目指しているが、これには実体経済を支える銀行セクターの統合が欠かせない。現状、統合に向けた当局の動きは緩慢だが、個別行レベルではこれに備える動きが既に見られる。本稿は、金融の発展度が大きく異なるASEANの銀行セクター統合について、その目指す姿や現状、課題について紹介する。

http://www.iima.or.jp/Docs/newsletter/2014/NL2014No_1_j.pdf

3. 「上海自由貿易試験区の意義」

2013年9月29日、中国（上海）自由貿易試験区（以下、上海自由貿易試験区）がスタートした。今回の自由貿易試験区は、上海の地域的なプロジェクトではなく、中国の開放拡大に向けた国家的プロジェクトと位置付けられており、その主な目的は国内産業の競争力強化にあるのではないかと考えられる。本稿では、こういった問題意識の下、本プロジェクトの意義について考えてみたい。

http://www.iima.or.jp/Docs/topics/2013/244_j.pdf

4. 「EUにおける2つの離脱可能性 “Grexit” と “Brexit” 」

ギリシャの EMU 離脱、イギリスの EU 離脱という二つの「離脱」問題を取り上げ、経済政治統合を進める欧州の前に立ちはだかる二つの構造問題を論じる。

http://www.iima.or.jp/Docs/report/2013/no5_2013_j.pdf

5. 「Asymmetric Movements of Foreign Exchange Rates in the Financial Crises of the 2000s : Case of the Japanese Yen and the Korean Won」

国際経済金融論考 2013 年第 2 号英語版

http://www.iima.or.jp/Docs/report/2013/no2_2013_e.pdf

■ 今週のキーワード

- ★MIP マクロ経済不均衡是正手続き
- ★ASEAN 経済共同体 (AEC)
- ★自由貿易試験区
- ★Grexit
- ★Brexit

レポートに関連する専門用語の参照はこちらから

<http://www.iima.or.jp/Docs/keyword/keyword.pdf>

■ 今月の IIMA

2013 年の世界経済は、米国の量的緩和政策の出口戦略、日本のアベノミクス、欧州債務危機問題、中国の金融不安等の動向が注目されましたが、それぞれに対する市場の冷静な受け止め、乃至今後への期待感から、総じて落ち着きを取り戻して年越しを迎えたのではないかと思います。

2014 年は、日本のアベノミクスが正念場となるのではないのでしょうか。2013 年に打ち出された「3本の矢」により、様々な経済・金融指標は改善してきていますが、4月の消費税増税による一時的な経済の落ち込みは避けられない中、成長戦略がうまく機能し、日本が順調に成長を取り戻していけるかが注目されます。

IIMA の 2014 年は、最終段階に入っている外部機関からの委託調査納入に向けた作業、及び 3 月 19 日に予定しております国際金融シンポジウムの開催準備からスタートしました。国際金融シンポジウムでは、2014 年も世界から著名なエコノミストをお招きする予定です。詳細が決まり次第皆様にご案内致します。

本年も、IIMA をどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

【バックナンバー】

<http://www.iima.or.jp/mailmagazine.html>

【次号】

2014 年 2 月 10 日配信予定

【メールマガジンの配信停止・配信先変更】

<https://m.entryform.jp/m/iima/>

【各種お問い合わせ】

admin@iima.or.jp

◇発行◇*****

公益財団法人 国際通貨研究所

〒103-0021 東京都中央区日本橋本石町 1-3-2 三菱東京 UFJ 銀行日本橋別館 12 階

[HP] <http://www.iima.or.jp>

***** Copyright (C) IIMA All Rights Reserved. *****